

プロダクション・ノートから 前川知大

カレンダー上には「公」と「私」、二種類の祝日がある。

公は、建国記念日や元旦など、いわゆる公休日。

私は、誕生日や命日など。

公のものは、いつか誰かが決めたフィクションである。

私のものは、絶対である。

コントロール不可能で、ただ与えられる生と死。

生まれた日と死んだ日。

本人にとって、その日以上に重要な日などあるだろうか。

＊

混沌とした世界と同化していた命は、秩序ある社会に参入する。

そこで生きていくためには、ルールを学ばなくてはならない。

そして、ルールブックはない。

毎日繰り返される誕生と死、それを繋ぐ再生と循環。

登場人物は、社会から世界に飛び出し、

再びドアを開けて社会にやってくる。

＊

年の瀬、会社員の男は、取り返しのつかない失敗をし、行き場を失う。

公園で会った老人に話を聞いてもらっていたはずが、

気がつくと思ひを剥がれ、パンツ一丁で元旦を迎える…。

＊

人生は、残念ながら正直どれも平凡で、驚くほど似通っている。

しかしもう一つ驚かされるのは、

全く同じものは一つもないということだ。

世界の真ん中に突き落とされた裸の人間。

物語はそこから始まる。

(2014/10/20)